

---

# 小説家になりたい！

神村律子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小説家になりたい！

### 【Nコード】

N7436H

### 【作者名】

神村律子

### 【あらすじ】

私は夢見る小説家志望の「おばさん」。あるサイトに小説を投稿したのが始まりだった。

私は夢見る乙女。

だったのは四半世紀前だ。

もうすっかり「おばさん」。

子供には「三段腹」を笑われ、夫にはいびきを指摘され。

そんな私にもまだ「夢」があった。

小説家だ。

恐らく、定年はないし、何歳から始めても大丈夫なはず。

子供の頃から、思い込みと前向きさには「定評」のある私は、覚えてのパソコンを使って、無料で投稿できるサイトを探した。

あった。

「小説家になれるよ」という投稿サイトだ。

早速超低速で入力した拙い短編を投稿した。

するじ。

思った以上に好評だった。

それに味を占めた私は、再び短編を投稿した。

それも好評だった。

更に投稿した。

それも好評だった。

すっかり小説家気分の私は、次に長編に取り掛かり、第一話を投稿した。

数日後、ドキドキしながら、評価欄を覗いた。

評価は一件のみだった。

しかも低評価。

がっかりしてしまった。

うん？

良く見ると、その人は自分の作品も読んで欲しいと書き添えていた。

私は勉強になると思い、その人の小説を読んだ。

しかし、その人には申し訳ないのだが、それほどのものではなかった。

感想も湧かないし、評価する気にもなれない。

それでも何もコメントしないのは悪いと思い、

「素敵な作品で、勉強になりました」

と書いた。

すると次の日、私の「マイページ」にその人からのメッセージが届いてた。

私のコメントに対する感謝の言葉と、次の作品の評価依頼が書かれていた。

気乗りしなかったが、読んでみた。

やはり思った通りで、何の感想も浮かばない、きつい言い方をすれば「独りよがり」な小説だった。

どうやら自分を主人公にした話のようなのだが、「自慢話」に終始しているのだ。

私には理解しかねるナルシズムの人のようだ。

今度はコメントする気になれず、そのまま放置した。

数日後、マイページに何通ものメッセージが送られて来ているのに気づいた。

全部例の人からだった。

しかもそれぞれの送信時間の間隔がわずか10分程度。

1つ開いてみた。

私に対する評価の催促。

普通の文面。

2通目はやや強い催促。

3通目は何故コメントしないんだという怒り。

4通目は罵詈雑言。

5通目は、お前の居場所を調べて直接文句を言ってやる、というもうすでに常軌を逸した言葉。

いくら何でも、私の家がかかる訳がないと思ったので、次からはその人からのメッセージは開かないで削除した。

それから数日後、私は郵便受けに切手が貼られていない封書を見つけた。

まさか？

そんなはずはないと思いながら、封書を開き、便箋を取り出して読んだ。

「すぐそこにいる。逃げないで待ってる！」

私は仰天して便箋を放り出した。

そしてすぐに家に駆け込み、ドアをロックした。

更に家中の窓の鍵を全てかけ、カーテンも閉めた。

結局何もなかった。

それでも私は不安だったので、夫に相談した。

夫はサイトに相談してみろ、と言った。

私はその夜、サイトの管理者にメールした。

次の日、サイトの管理者から返信があった。

私はその回答を見て驚愕した。

私に脅迫紛いのメールを送りつけて来た人は存在していなかった。

その人のIDは数年前に削除されて、現在使用されていないという。

私は不審に思い、小説を検索した。

確かに存在していなかった。

どついう事なのか、さっぱりわからなかった。



すっかり終わった。

そう思っていた。

しかし終わっていなかった。

また郵便受けに切手が貼られていない封書が投函されていたのだ。

便箋にはこう記されていた。

「おい、いつまで惚ける気だ、早くコメントしろ！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7436h/>

---

小説家になりたい！

2010年10月13日18時53分発行